社会人アメリカンフットボールリーグにおける

スポンサーに依存しないチームの誕生

―ノジマ相模原ライズに着目して―

酒井雄介

キーワード：アメリカンフットボール，クラブチーム，相模原ライズ

1.研究の動機

決して好景気とは言えない現在の経済状況でマイナースポーツであるアメリカンフットボールの社会人チームが活動しいていくのは困難である。2008 年、オンワードオークスという社会人アメリカンフットボールチームが解散した。このチームは 2 年前の 2006 年に日本一になるほどの強豪チームであった。しかし、このチームは、「ノジマ相模原ライズ」とチーム名を変更し、「社会情勢に左右されない、地域と共に歩むプロフェッショナルクラブ」をコンセプトに、現在も社会人一部リーグで健闘している。筆者自身も大学四年間アメリカンフットボール部に所属しており、日本一を経験したほどの社会人チームが何故解散にまでいたってしまったのか。そして、現在に至るまでの道のりはどのようなものだったのかに大変興味を持った。

2.研究の目的と意義

社会人アメリカンフットボールチーム「オンワードオークス」の解散（2008 年）から、再結成、そして現在の「ノジマ相模原ライズ」(2016 年）となるまでのチームの歩みを明らかにすることを本研究の目的とする。

また、この「ノジマ相模原ライズ」というチームが実際にどのような活動を行い、社会人一部リーグに戻ってきたか、現在どのような運営方法を行っているのかを明らかにすることで、社会人アメリカンフットボールリーグにおける、新しいチームの形を考え、社会人アメリカンフットボールリーグの発展の一助となることを本研究の意義とする。

3.先行研究の検討

社会人アメリカンフットボールに直接言及している先行研究は存在しなかったが、社会人スポーツ・企業スポーツについての研究はいくつか存在している。

左近允（2002）の企業スポーツの新たな可能性を探った研究、杉山ら （2009)の企業スポーツと日本のスポーツ状況を考えた研究である。杉山ら（2009）は日本における企業スポーツの問題点や企業とスポーツの関わり方についての研究を様々なスポーツや様々な観点から述べている。上記の二点の論文も企業スポーツに関する研究であるが、アメリカンフットボールについての記述は殆どなく、もちろん「オンワードオークス」の解散から「ノジマ相模原ライズ」誕生までの経緯を明らかにしている研究は見られなかった。

4. 研究の課題と方法

本研究では、主要史料として、チームが出している公式イヤーブック、チーム関係者への聞き取り、同時代の雑誌・新聞記事を用いて、ノジマ相模原ライズというチームの誕生の経緯を、以下の三点から検討することを課題とする。

1）オンワードオークスの解散（第一章）
「オンワードオークス」というチームが解散するに至った経緯を「オンワードオークス」が所属していた社会人アメリカンフットボールリーグの実態と共に検討する。

2）相模原ライズとしての再出発（第二章）

「オンワードオークス」解散後、「相模原ライズ」としてどのような目標をもって再出発したのか、どのように社会人一部リーグに復帰したのかの経緯を検討する。

3) ノジマ相模原ライズとしての現在(第三章)
「相模原ライズ」から現在のチーム体制である「ノジマ相模原ライズ」に至るまでの経緯と現在の活動状況や今後の課題を検討する。

結論部では、「ノジマ相模原ライズ」という新たなチーム運営方法をとるチームの誕生の意味を社会人アメリカンフットボールリーグの在り方という観点から評価する。

5.本論

5.1.オンワードオークスの解散

社会人スポーツのスポンサー企業は一番に宣伝効果を期待してスポーツを支援している。そして企業に支援されている以上、結果を出すことがチームには求められている。その中で、オンワードオークスというチームは、日本社会人アメリカンフットボールリーグを代表する強豪チームである。しかし、そのようなチームでも企業の経営方針によって一瞬にして解散に追いやられてしまう。社会人スポーツであるからこそ、そのチームの存続は企業に委ねられ、経済の影響を反映しやすいのであろう。2009 年に生じたリーマンショックの影響で日本経済にも不況の波が押し寄せ、結果オンワードオークスは解散になった。しかし、チームの中心選手の「このチームをなくしてはならない。」という強い思い、ファンや地域の人たちの相続を願う声がチーム再結成の契機となった。

5.2.相模原ライズとしての再出発

2008 年のチーム解散直後に発足した相模原ライズの当初の状況は、「一企業に依存しないチーム作り」を目標にしたものの、資金面や環境面において課題が山積みであった。しかし、根強いファンの支え、地域の人の協力が精神面、物質面両方において大きな力となり、手探りながらも活動を続けていった。そうした支えを受けて相模原ライズは社会人リーグに 3 部リーグからではあるが、復帰し、支えてくれた人たちの恩返しの意味も込めて、「3 年で日本一」という目標を立てたのであった。

5.3.ノジマ相模原ライズとしての現在

チームはノジマがスポンサーにつき、より強固なチーム運営を確立する。惜しくも日本一には後一歩及ばなかったが、チームとしてのここまでの歩みは地域や周囲の人たちに確実に認められている。当初の予定通り、チームは一企業に依存することなく、運営を続けることができている。チームを取り巻く周りの環境は日々変わっており、その中でチームは更なる飛躍を求めて、アメリカンフットボールでの日本一と共に、地域との更なる交流を図っている。

6.結論

ノジマ相模原ライズは一企業に依存しない、地域の人たちからの支えや自らの働きで運営資金を賄っている新しい運営方法をとるチームである。このチームが誕生したのは、解散がきっかけであるが、それ以上に「このチームをなくしてはならない」というチーム関係者の思い、「活動を続けて欲しい」というファンの人たちの思いによるものが大きいだろう。宣伝効果や企業の利益などではなく、チームへの愛情というものにより誕生したチームだからこそ、地域と一体となった運営方法をとり、地域貢献を第一に考え、活動をしていると考える。決して好景気とは言えない現在の経済状況でマイナースポーツである社会人スアメリカンフットボールチームが活動を続けていくことは決して容易ではない。経済の情勢によりチームが解散するというオンワードオークスのような例を一つでも少なくするために必要なことは何なのだろうか。地域に愛され、人々が共感を寄せる、ただ勝利だけを求めるのではない、「ノジマ相模原ライズ」のようなチームが誕生したことが今後の社会人アメリカンフットボールリーグ発展の新たな手掛かりを示したと結論付けられる。